

原油市場展望

2023年11月



調査部 マクロ経済研究センター

<http://www.jri.co.jp/report/medium/Japan/>

目次

◆現状・見通し……………p. 2

◆トピック……………p. 3



調査部 マクロ経済研究センター（米欧経済グループ）

副主任研究員 松田 健太郎

（ Tel: 080-4176-4439 Mail: matsuda.kentaro@jri.co.jp ）

- ◆本資料は2023年11月3日時点で利用可能な情報をもとに作成しています。
- ◆「[経済・政策情報メールマガジン](#)」、「[X \(旧Twitter\)](#)」、「[YouTube](#)」でも情報を発信しています。

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起因してご閲覧者様及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。

原油価格見通し：80ドル台で不安定な動き

◆現状：80ドル前半で推移

10月のWTI原油先物価格は、上旬に米国の長期金利上昇が景気を抑制するとの見方から、80ドル前半へ下落。その後は、中東の紛争激化を受けて原油供給が滞るとの懸念が高まり、90ドル台乗せ。

下旬にかけては、紛争の拡大は限定的との見方が優勢となるなか、ベネズエラによる供給増加観測が強まったことに加え、中国の経済指標が市場予想を下回ったことなどを背景に、80ドル前半へ再び下落。

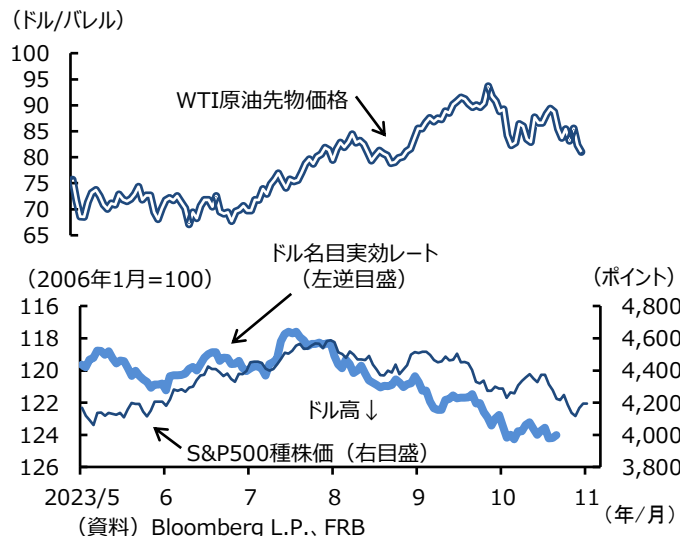
◆投機筋の買い越し幅は横ばい

米長期金利の上昇などから原油需要が減少するとの見方が強まり、投機筋による原油先物の買い越し幅は縮小。その後は需給双方の材料が交錯し、横ばい圏の動き。

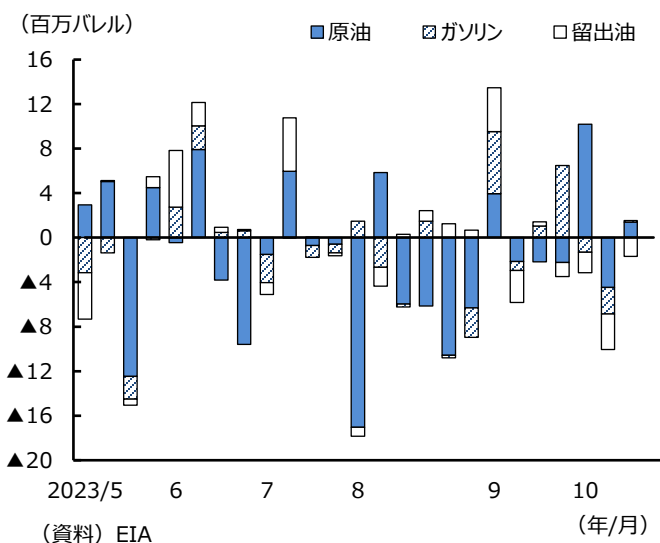
◆見通し：高値圏で推移

先行きを展望すると、原油価格には上昇圧力がかかりやすい展開が続く見込み。OPECプラスによる大規模減産が継続することや米シェールオイルが緩やかな増産にとどまることから原油供給の増加は限られ、需給引き締めりが意識されやすい展開に。ただし、米欧などの主要国では金融引き締めを背景に景気が減速するほか、中国でも景気の足取りが重いことから、価格上昇ペースは緩やかにとどまる公算。

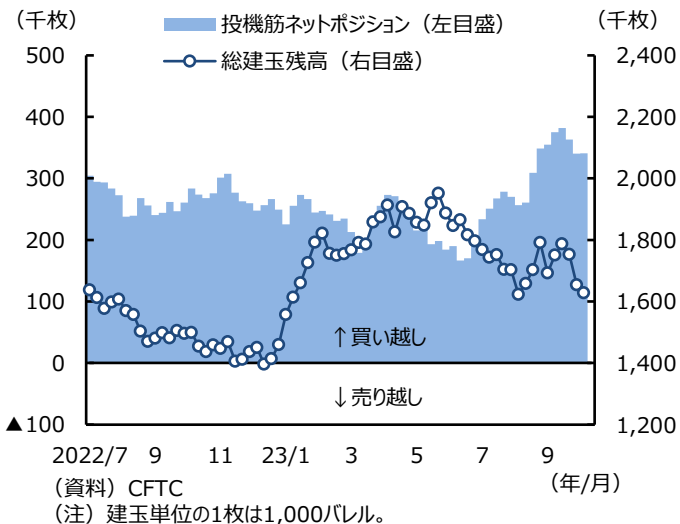
原油価格と株価・為替レート



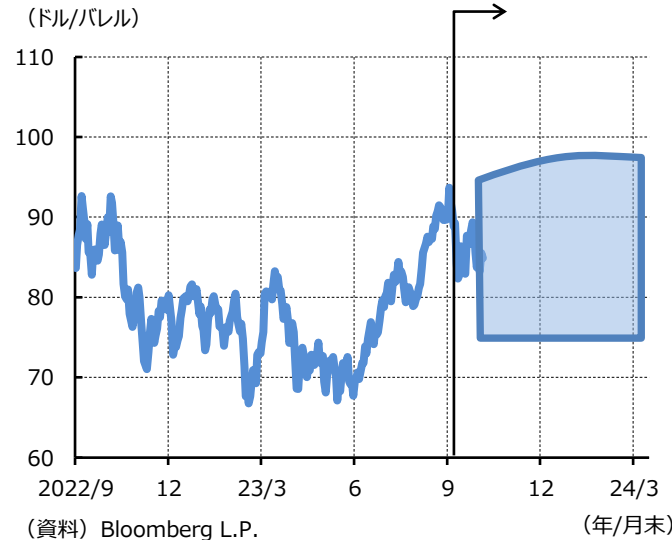
米国の原油・石油製品在庫 (前週差)



WTI原油先物ポジション



WTI原油先物価格見通し



◆減産から需給はタイトな状況

夏場以降、産油国の大規模な減産により原油価格に上昇圧力。OPECプラスの減産に加え、サウジアラビアが自主減産を行うなど価格下支え姿勢を明確化。これを受けて、原油の需給バランスは需要超過が持続。

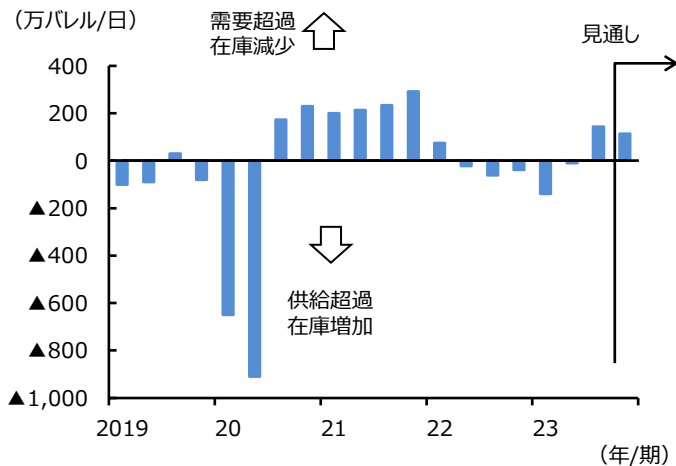
◆地政学リスクで一段高の可能性も

こうしたなか、中東で地政学リスクが高まり、供給を巡る不透明感が増大。ガザを実効支配するハマスがイスラエルに奇襲攻撃を仕掛けたことを機に紛争が激化。今回の紛争地域に主要油田はないものの、中東の混乱で原油供給が停滞するとの見方が台頭。原油価格のボラティリティを示すOVX指数は急速に上昇するなど、市場は不安定な状況に。

足元では、戦線の拡大が限定的なことから過度な供給懸念は後退。もっとも、米国がイラン関与の疑いを強め、それを受けてイランが強硬的な姿勢に転じる場合、イランの原油供給の減少や報復措置の実施の可能性も。

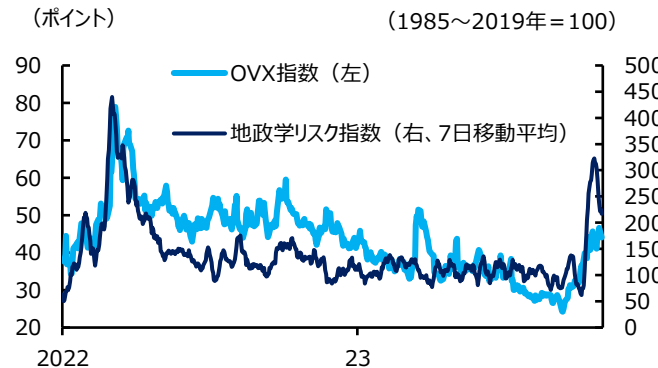
仮に戦況が拡大し、中東産油国の供給全体に懸念が及ぶ場合、一段の価格上昇に。世界銀行によると、日量200万バレル程度の供給減少であれば100ドル前後への上昇にとどまる一方、主要産油国の禁輸措置の実施により大規模な供給ショックが生じた場合、150ドル近くに上昇する可能性も。

世界の原油需給バランス



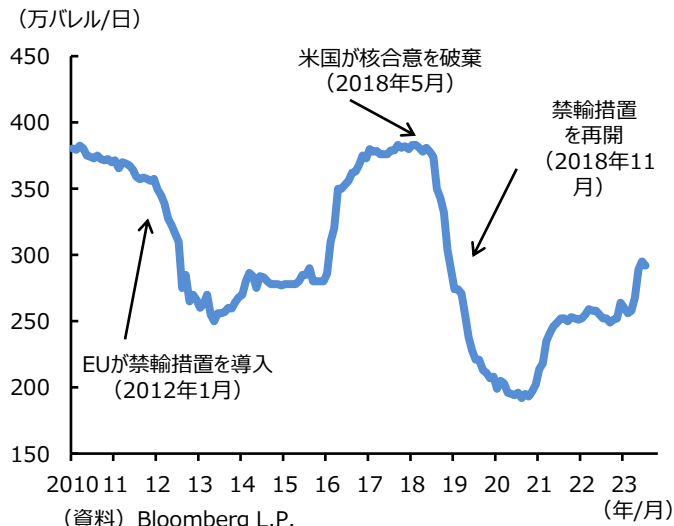
(資料) IEA、各種報道を基に日本総研作成
(注) 見通しは、OPECプラスの減産が年末まで継続すると想定。

原油版VIX指数と地政学リスク



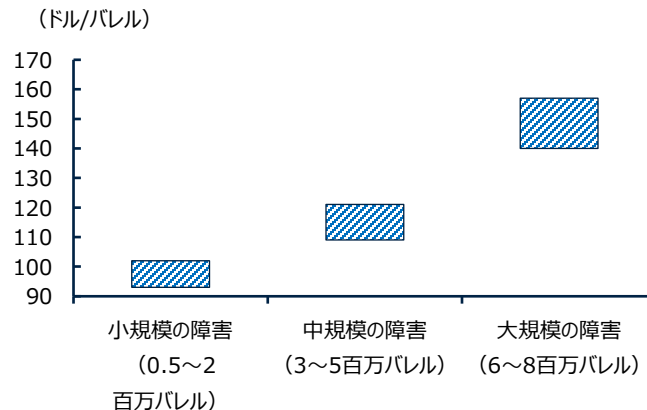
(資料) Economic Policy Uncertainty、Bloomberg L.P.を基に日本総研作成
(注1) 地政学リスク指数は、関連新聞記事の数を基に算出された指数。
(注2) OVXはWTI原油先物価格への連動を目指すETFのオプション価格を基に算出される予想変動率。

イラン原油生産量



(資料) Bloomberg L.P.

中東の原油供給障害による原油価格の上昇幅



(資料) 世界銀行を基に日本総研作成
(注1) 過去の供給網の混乱との類似点を基に想定されたもの。
(注2) 括弧内は、同ショックにより減少する供給量。
(注3) ベースラインを90ドルをした場合。

公表済みのレポート

詳細は、以下のリンクからPDF形式でご覧いただけます。

リサーチアイ

- ▶ [英国、住宅ローン金利上昇が個人消費を強く下押し—逆資産効果と利払い負担増で来年の消費1.6%減—](#) 藤本一輝 10月17日
- ▶ [わが国に求められるエネルギー補助金の「出口戦略」](#) 梅野裕貴 10月4日
- ▶ [低失業率でも弱まる米国の賃上げ圧力— 求人の減少、雇用のミスマッチ改善、労働供給の増加が背景 —](#) 梅野裕貴 9月21日
- ▶ [労働力不足に苦しむドイツ経済— 絶対数のほか熟練労働力の人材難が回復のネック—](#) 藤本一輝 8月29日

リサーチフォーカス

- ▶ [米国学生ローン返済、消費を長期下押しも — 年間の消費額最大0.4%減、デフォルト増加なら一段の減少 —](#) 松田健太郎 10月20日
- ▶ [ユーロ圏の高インフレは長期化へ — 根強い賃金上昇圧力がサービス価格を押し上げ —](#) 松田健太郎 8月2日

シンポジウムのご案内

子育て環境整備に向けた企業の使命

～雇用におけるジェンダー格差の抑制が不可欠～

わが国では、少子化の加速に歯止めがかからず、実効ある子育て支援の必要に迫られています。男性の取得率は低位にとどまり、主に女性が家事・育児を担う状況に変化はみられません。本シンポジウムでは、こうした問題意識を出発点に、若い世代の子育て環境を支える企業・社会のあるべき姿について議論してまいります。

パネリスト

株式会社 日本総合研究所



岩田 喜美枝 氏

社外取締役
(住友商事、味の素、
りそなホールディングス)



白波瀬 佐和子 氏

東京大学大学院
人文社会系研究科 教授



藤原 加奈 氏

株式会社フジワラテクノアート
代表取締役副社長



藤波 匠

調査部 上席主任研究員



井上 恵理菜

調査部 副主任研究員



翁 百合

理事長

日時

2023年11月28日 火

15:00-17:30 (開場 14:30)

場所

【会場+YouTube】同時開催

(1) 会場 経団連会館 ダイアモンドルーム
(〒100-0004 東京都千代田区大手町1丁目3-2)

(2) YouTube 配信

参加費

無料

申込み

下記 URL・QRコードよりお申込み下さい。
https://www.jri.co.jp/seminar/231128_615/detail/

会場参加につきましては、
応募多数の場合、抽選になります。
詳細はお申込みページをご確認ください。

